

美術科

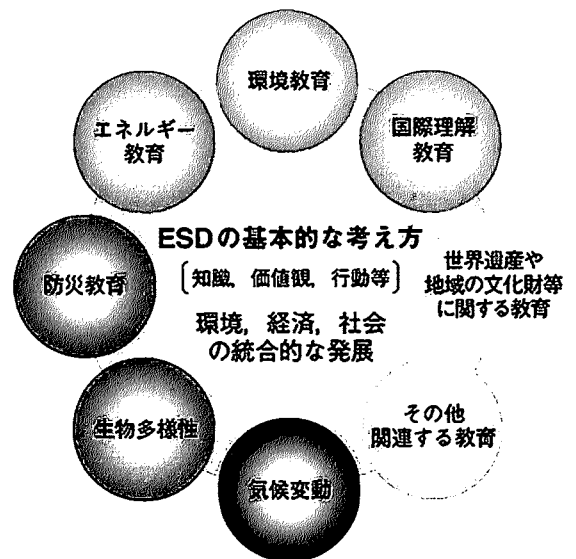
西澤 明

研究協力者 鷲山 靖(金沢大学)

1. ESDを進めるにあたって

「ESD: Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)」は、我々がこれから生き続ける上で困難な諸問題を解決するために、「将来の世代のニーズを満たしつつ、現在の世代のニーズも満足させるような開発(持続可能な開発)」を構築する担い手を育む教育である。

その教育は、「ESDに関わる内容(例えば環境の保全と回復、天然資源の保全、世代間の公平、地域間の公平、男女間の平等、社会的寛容、貧困削減、公正で平和な社会など)についての知識や価値観の理解を図る…①」とともに、「それらが抱えている諸問題の解決を図るのに必要な能力や態度を育成する…②」ものである。これは、学校教育における「確かな学力」にほかならず、①の「知識や価値観の理解」は「基礎的・基本的な知識・技能の習得」、②の「能力や態度」は「基礎的・基本的な知識・技能の活用」、「主体的に取り組む態度」と捉えられるだろう。国立教育政策研究所教育課程研究センターによる解説にも、「ESDで取り上げられる内容は必ずしも新しいものではありません。社会や学校におけるこれまでの教育をESDの視点で捉え直すことにより、様々な分野の教育に、持続可能な社会という共通の目的を与え、具体的な活動の展開に明確な方向付けをするものです。」と明記されている。つまり、学校教育におけるESDはことさらに新しい学習のあり方やその時間を求めるものではない。大切なことは、各教科等における学習活動をESDの視点に立って見直し、ESDの視点に立った学習指導を意図的に計画、実践することだと言える。



2. 能力・態度の育成にあたって

(1) 中心的に扱う能力・態度について

ESDの視点に立った学習指導を進めるにあたって、国立教育政策研究所教育課程研究センターはその指導の目標を、『教科等の学習活動を進める中で、「持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付け」、持続可能な社会の担い手としての資質・能力や価値観を養う』としている。さらに「学習活動で重視する能力・態度」の例として、「①批判的に考える力」「②未来像を予測して計画を立てる力」「③多面的、総合的に考える力」「④コミュニケーションを行う力」「⑤他者と協力する態度」「⑥つながりを尊重する態度」「⑦進んで参加する態度」の7つを挙げている。

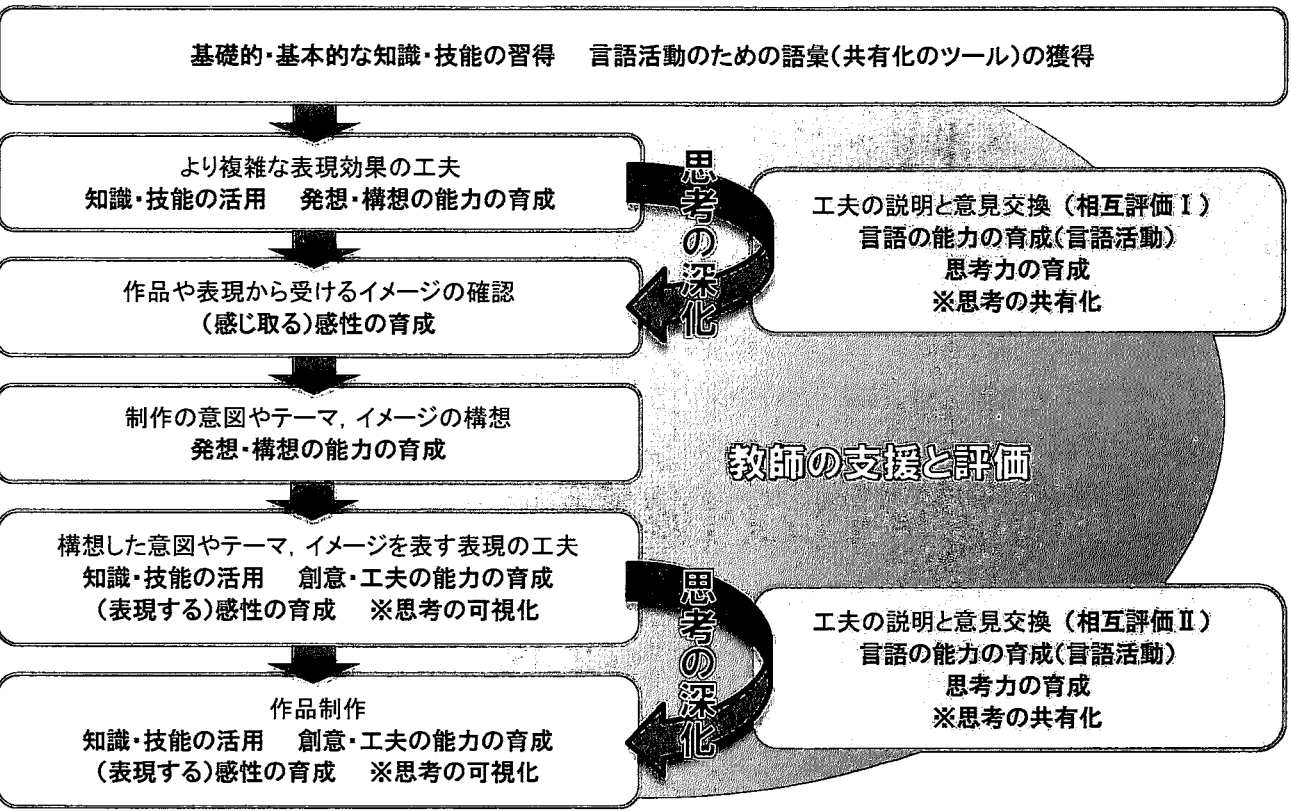
美術科では、「①批判的に考える力」「④コミュニケーションを行う力」に焦点を当てて活動を行うことにした。「①批判的に考える力」については、表現活動における発想・構想の段階や、発想・構想の実現を図る創造の段階で求められる、個々の経験や知識・技能を活用する力(思考力・判断力)と結びつけることができると考えた。「④コミュニケーションを行う力」については、様々な

手段で行われる表現活動そのものが、考えを伝え合うコミュニケーションであると考えた。

(2) 従来の研究とのつながりについて

これまで本校では、「確かな学力」の3つの要素のうち、「基礎的・基本的な知識・技能を活用して問題解決をするのに必要な思考力・判断力・表現力の育成」、とりわけ「思考力の育成」に焦点を当てた研究を行ってきた。ここで求められている思考力は、本来、教科をはじめとしたすべての学習活動を通して育成を図る共通したものだが、本校では「各教科の思考力」と捉えている点に独自性がある。

美術科においては、思考力を、「学習活動の中で生じたり設定されたりする課題を、さまざまな思考の方法を用いて考える力」と捉えた。美術科の表現活動は、作品の方向を発想・構想し、そのよりよい実現のために創意・工夫する繰り返しである。それは個々の感性を働かせ、既習の知識・技能を活用する活動であり、美術科における思考力（判断力・表現力）の育成の場面である。そこで、学習指導要領に示された教科の目標における「豊かな感性の育成」に焦点を当て、イメージを受け取る「感じ取る感性」と、表現効果を活用して制作意図のイメージを可視化する「表現する感性」の二つの感性の場면을意識した学習活動を行うことで、より思考力が深まると考えた。



(3) 教材の「つながり」について

平成27年度の本校研究では、ESDの視点に立った学習指導を進める上の留意事項として示されている「3つのつながり」のうち、「教材のつながり」に焦点を当てている。美術科は次の二つの観点で他教科の教材とのつながりを図っている。

A. 制作のテーマをESDに関わる内容にする。

例えば制作のテーマを「環境問題」とすることで、「環境問題」を扱う他教科等と、教材の内容の「つ

ながり」を図る。ただし、美術科においては「環境問題」自体は学習内容ではない点に注意する。

B. 学習のねらいを、他教科の題材や学習のねらいと結びつける。

例えば国語科の題材「おとなになれなかった弟たちへ……」における心情や情景に対する考察は、美術科においても重要なねらいである。同じ題材を扱うことで、より深い理解を図る。

3. 成果と課題

(1) 成果

① 制作のテーマをE S Dに関わる内容にする取り組みについて

「切り紙で表現する“環境問題”」の単元で実践を試みた。本単元では、「美しく切る、糊をしっかりと塗る、美しく貼る」といった基礎的・基本的な知識・技能の習得と、色彩や形、構図を自分自身の感性で決定していく力の育成をねらいにしている。この学習のねらいは、作品のテーマに関わらずその実現が図れるものであり、ある程度、自由に選択ができる。そこで、E S Dに関わる内容、中でも大きな柱であり、他教科とのつながりを作りやすい“環境問題”をテーマにすることにした。

環境問題についてまとめた資料を配布し、熟読させたあと、その中から選んだ環境問題をテーマに、その内容を表現する4つの場面を考えさせた。文章で書かれた資料の内容を作品として視覚化するためには、しっかりと内容の理解をしなければならず、生徒たちはアンダーラインを引いたりしながら真剣に構想を練っていた。制作の段階でも、伝えたい内容を色紙で表現するためには、色彩や形、構図の工夫をしなければならず、造形的な深まりにつながったように思う。

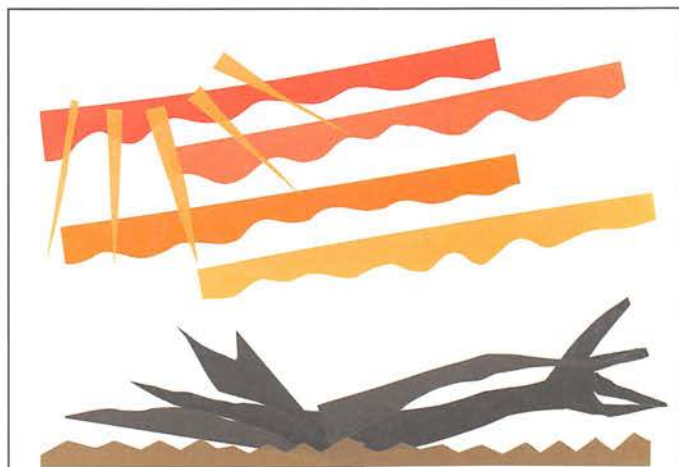
② 学習のねらいを、他教科の題材や学習のねらいと結びつける取り組みについて

国語科の題材「大人になれなかった弟たちに……」を題材に、昨年度に引き続き、鉛筆の技法とその表現効果を使った活動で実践を試みた。鉛筆を使って、感情や気持ち、音、温度、手触りといった「目に見えないもの」を表現する授業自体は継続して行っているもので、基本的な描画用具、鉛筆の可能性について、ある程度の成果も挙げてきている。しかし、「目に見えないもの」をテーマにしていた時には、技法・表現効果の完成度は高かったものの、内容はやや表面的だった。「大人になれなかった弟たちに……」を題材にすることで、生徒たちは、感情や気持ちの視覚化という、表現活動において最も重要な課題に向き合うことになったように思う。他者の感情や気持ちに寄り添う資質や態度を育てることは、美術科として重視する目標であるのと同時に、E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度、「コミュニケーションを行う力」にもつながり、大きな可能性を持った取り組みだと考えられる。

(2) 課題

確かに、「教材のつながり」はE S Dの視点に立った指導を進める上での留意事項であり、実際に、教科における学習理解や思考力の育成を深める「手立て」としては有効である。E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度は、これまでの学習指導で重視されてきたものと大差はない。しかし、「教材のつながり」を図る際に、単純に教材の題目や学習内容のつながりを図るだけでは、E S Dではない。国立教育政策研究所教育課程研究センターによる解説に、「これまでの教育をE S Dの視点で捉え直すこと」「持続可能な社会という共通の目的を与え、具体的な活動の展開に明確な方向付けをする」と明記されているように、「教材のつながり」を図る際の観点は、E S D独自の視点を、より具体的に共有することが必要であり、今後の課題になると思われる。

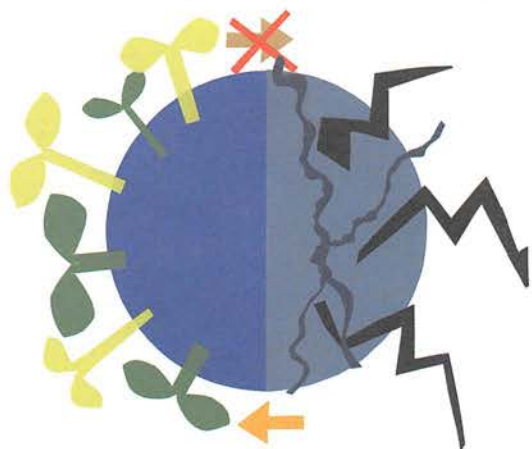
テーマ「森林破壊」



森林の伐採が進み、砂漠化が進んでいる。



森林を切り開いて農地や都市を開発している。



森林を伐採し続けるか、リサイクルなどの活動をするかで地球の未来は変わる。



森林の保全活動を通して環境がよくなり、未来が明るくなる

テーマ「地球温暖化」



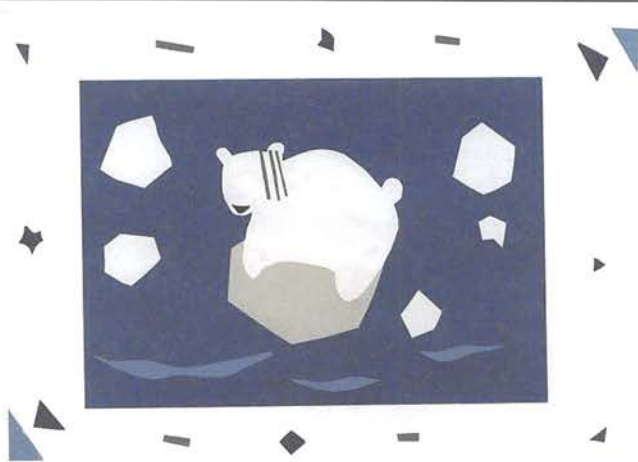
大都市の水没
海面が1m上昇するだけで東京などの都市部が水没し、
90兆円以上の資産が失われる。



地球温暖化の原因
日常のどのような場面でCO2が排出されているか。



異常気象
地球温暖化による異常気象の発生。



北極の氷
北極の氷が段々小さくなり、ホッキョクグマが困っている。

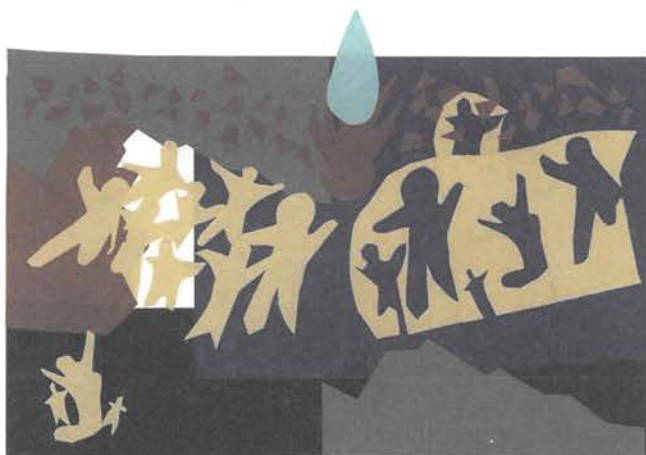
テーマ「水資源の危機」



水のむだ使い
水のむだ使いを見ていると痛くなる。



日本の水の使用量の多さ
かき集めている様子を渦で表してみた。

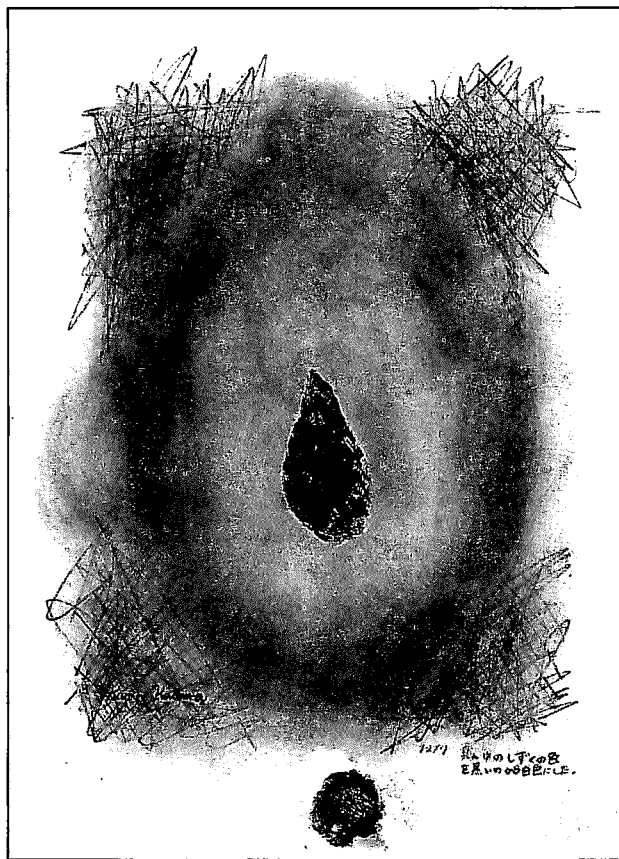


水をめぐる国際紛争
悲惨さを暗い色調にした。



水不足による被害
水がなくなって枯れていく草花。

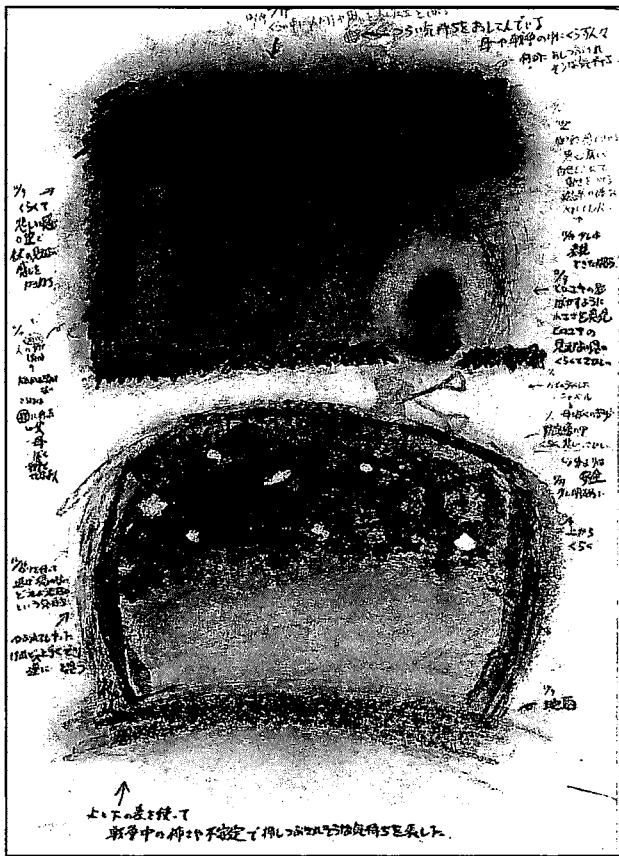
「大人になれなかった弟たちに……」 生徒作品と解説



A



B



C

私は最初に物語を読んだとき、母さんが初めて泣いた所がとても印象に残りました。お母さんが初めて泣いた時を見た僕や妹はどのように思ったのかとても気になりました。私が考えた中では、今まで自分のことを苦しくても泣かなかったのに……と思ったと思います。それから私はこの部分をずっと読みました。お母さんの泣いたのは最初は目立つように白だ、たのすが、逆に真黒に泣いたのではないかなと思います。真黒に泣きました。そして真黒に泣く事やお母さんの泣いたがきれいではなく、少し悲しいという気持ちも入りました。そして、4つの角はトゲトゲした気持ちを表すために、トゲトゲした線を描きました。お母さんの感情を表現しました。

A

私は「大人になれなかった弟たちに……」の弟が死んでしまった場面での僕の気持ちを表現しました。悲しい気持ちをメインに背景を真黒にし、勢いのある線を描きました。エミリー・ポントは、白と黒の交差点の線です。ヒロキが天国へ行ってしまふことや天国へ行ったから来られないかもしれないという光が白い線で、ヒロキの死の深い悲しみを黒い線で表現しました。そして、「ヒロキは死にました」という淡い言葉の裏にある、整理できない気持ちを濃く強い線とぼかし、着ぐるみの線と痛みの感じの線とを混ぜた感じを表現しました。

B

私は大人になれなかった弟たちに……の防衛隊や戦争についての説明の部分から、戦争への怖さや不安定で押しつけられるような気持ちや、妹の見えない不安定な感情を黒く黒く（B.O.の絵筆でかいた）、防衛隊の中でのリヤテープを使い、それらの気持ちを表現しました。色の中でヒロキの小さなうすくしたエミリーで母に多くの言葉を表現し、人がいけなくなるとして戦争が家族との関係をも切り取っていくような感じにしました。防衛隊の中の破壊的な場所はまだ作業中に壊れてしまったのですが、それによって戦争中の人々のリヤテープや不安定な気持ちを表すことができたのでした。白と黒を使い分けて表すことができたのでした。

C

1 題材名 切り紙で表現する“環境問題”

2 ねらい

- 環境問題をテーマにした切り紙絵の制作で、4つの場面で問題提起できる。
- 切り紙の制作を通して、「切る、色彩・形を構成する、貼る」といった基礎的・基本的な知識・技能を習得する。

3 学習活動

- 鑑賞活動としてマチスの切り紙「JAZZ」を取り上げ、表現における「自由な色・形」「平等な色」「余白の美」という観点を理解する。
- 作品のテーマを“環境問題”とする。10のテーマから1つを選び、選んだテーマから4つの場面を発想・構想する



マチスの切り紙「JAZZ」より抜粋

5分でわかる地球の現状シリーズ

地球環境の実態は、一般に知られているよりはるかに深刻です。国連報告、政府の環境白書などの標準データに基づいて地球の現状を、世界と日本の事実を項目ごとに5分でわかるようにまとめてみました。わたしたちは、何をすべきなのか・・・一顧に考えていきましょう！

ごみ問題 日本は、企業の製造責任や市民のゴミの分別化などがなく、世界でもっともごみ処理能力が低い国です。外国では、企業の製造責任やゴミの分別化により、ごみを大幅に削減しています。	地球温暖化 地球温暖化の主な原因である二酸化炭素(CO2)は、電気のガス、ガソリンや灯油など、私たちの生活で必要不可欠な物質です。イフスタイルによって大量に発生しています。	オゾン層破壊 オゾン層には有害紫外線を吸収する重要な作用があり、もしオゾン層がなくなれば地上の生物は滅亡します。今、人間が作り出した化学物質フロンによって危険な状況になっているのです。	森林破壊 森林は水、食糧、空気を作り出し、私たちに必要不可欠なものです。しかし、紙の需要によりすでに世界の原生林の76%が失われています。
生物種の絶滅 リョコウバト、ニホンオオカミ、オオミズカサギ・・・この200年ほどの間に、多くの生物が絶滅から危境を脱しました。トキ、アホウドリ、パンダ、トラ、ライオン、ゾウ・・・私たちのよく知るこうした仲間たちも今まさに絶滅の危機に瀕しています。	人口爆発と貧困 この100年間で人口は急激に増えています。人口増加はなぜ起こるのでしょうか？人口が増えることによる問題は、食糧問題、エネルギー問題、環境問題など、さまざまな問題を引き起こしています。	食糧問題 日本では、日常生活の中で食糧がとれなくなることが、日頃食糧危機を体験することはめったにありません。しかし、一方で世界には飢饉で苦しむ人がたくさんいます。世界の現状はどうなっているのでしょうか？	エネルギー問題 私たちの生活は石油・石炭に依存し、年々その消費量は増加しています。何年も前からつくられた原発が、地震の危険を冒かすようになっています。
水資源の危機 水はすべての生命の源。ところが、わたしたちはその大切な水を大量に使い、汚し続けています。世界の水資源は枯渇寸前です。	砂漠化 「砂漠化」とは、「土壌が植物などが生育できないほど劣化する状態」です。それは「食糧問題」にもつながります。日本でもわたしたちが考えているよりも砂漠化は深刻な問題なのです。		

生徒配布資料（環境問題の10のテーマ）

4 ESD との関連

(1) 構成概念

Ⅱ相互性・・・情報を視覚化にすることで、お互いに伝達し合うこと。

Ⅲ有限性・・・環境問題に対する関心の喚起と知識理解。

(2) 能力・態度

③多面的、総合的に考える力

自分の思いを豊かに表現し、他者の表現を受け止めていくことができる。

(3) 教材の「つながり」

“環境問題”に関わる学習活動全般。

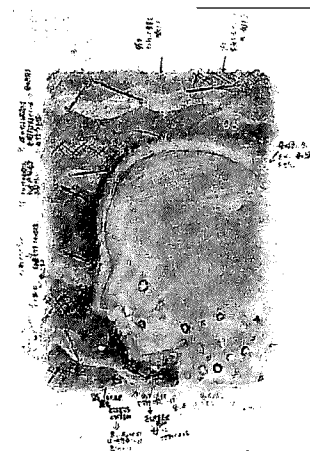
1 題材名 鉛筆で表現する気持ち“大人になれなかった弟たちに…”

2 ねらい

- 鉛筆の基礎的・基本的な知識・技能を理解し、表現に活用する。
- 文章題材からイメージ、気持ち・感情を受け取り、表現技法や効果を用いて視覚化する。

3 学習活動

- 鉛筆の表現技法や効果から受けるイメージ、気持ち・感情などを、意図する表現に活用する。
- ESDの視点に立った学習指導として、他の教科で取り上げる教材とつながりを図る試みである。国語科の教材、「おとなになれなかった弟たちへ…」を、鑑賞活動と表現活動の二つの場面で題材として取り上げることにした。
- 「おとなになれなかった弟たちへ…」は、戦時下という時代背景と、その時代に生きた作者の実体験に基づいた話である。そうした意味では、ESDの「人の意志・行動に関する概念」に関わるものと考えられる。その内容も、鑑賞活動において、子どもたちの真剣な態度や感情を引き出しやすいものである。
- 鑑賞活動において、色や形からイメージや気持ち・感情などを受け取り、それを言葉で伝え合うこと（表現力）、表現活動において、事前に学習した知識・技能（本単元の場合は鉛筆の表現技法や視覚的效果）を意識しながら発想・構想し（思考力・判断力）、それを制作に生かすこと（表現力）で、「教科の思考力・判断力・表現力」の育成を意図している。それは、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度における「③多面的、総合的に考える力」、「④コミュニケーションを行う力」にもつながると考えている。
- さらに、国語科の学習で作品に対する理解を深めた上で鑑賞活動、表現活動に臨むことで、それらの能力の育成はより一層深まると考えられる。



作品の解説 何を感じたか、そのためにどんな鉛筆の技法・効果を使ったか
教科書の文を読んで、おとなになれなかった弟たちの、母さんに対する思いが、この時の気持ちを表している。母さんの顔の表情が、おとなになれなかった弟たちの、母さんに対する思いが、この時の気持ちを表している。母さんの顔の表情が、おとなになれなかった弟たちの、母さんに対する思いが、この時の気持ちを表している。

制作の流れ 作品制作が進む中で変化したこと、どう変化したか
最初は母さんの顔の表情を、おとなになれなかった弟たちの、母さんに対する思いが、この時の気持ちを表している。母さんの顔の表情が、おとなになれなかった弟たちの、母さんに対する思いが、この時の気持ちを表している。

感想など 今回の授業を通して考えたこと、感じたこと、学んだことなど
今回の授業を通して、おとなになれなかった弟たちの、母さんに対する思いが、この時の気持ちを表している。母さんの顔の表情が、おとなになれなかった弟たちの、母さんに対する思いが、この時の気持ちを表している。

作品の解説 何を感じたか、そのためにどんな鉛筆の技法・効果を使ったか
教科書の文を読んで、おとなになれなかった弟たちの、母さんに対する思いが、この時の気持ちを表している。母さんの顔の表情が、おとなになれなかった弟たちの、母さんに対する思いが、この時の気持ちを表している。

制作の流れ 作品制作が進む中で変化したこと、どう変化したか
最初は母さんの顔の表情を、おとなになれなかった弟たちの、母さんに対する思いが、この時の気持ちを表している。母さんの顔の表情が、おとなになれなかった弟たちの、母さんに対する思いが、この時の気持ちを表している。

感想など 今回の授業を通して考えたこと、感じたこと、学んだことなど
今回の授業を通して、おとなになれなかった弟たちの、母さんに対する思いが、この時の気持ちを表している。母さんの顔の表情が、おとなになれなかった弟たちの、母さんに対する思いが、この時の気持ちを表している。

4 ESD との関連

(1) 構成概念

- Ⅱ 相互性…情報を視覚化することで、お互いに伝達し合うこと。
- Ⅲ 有限性…反戦平和に対する関心の喚起と知識理解。

(2) 能力・態度

③ 多面的、総合的に考える力

自分の思いを豊かに表現し、他者の表現を受け止めていくことができる。

(3) 教材の「つながり」

- ① ESD 関連分野 平和
- ② 教科 国語